

「映像で魅せる IS プログラム」  
プロジェクト報告書

京都産業大学 2 回生 辻本大珠  
花園大学 2 回生 田中泰源  
京都美術工芸大学 1 回生 本田 晴

## □プロジェクトの概要

プロジェクト名：映像で魅せる IS プロジェクト

受け入れ先：公益財団法人大学コンソーシアム京都

活動期間：7月～11月上旬

PR 動画の使用：大学でのガイダンスに使用、大学コンソーシアム京都の HP への掲載

## □プロジェクトと現状

1 day 中心としたプログラムが主流となりインターンシップ自体への参加率は高いものの長期型インターンシップ参加者が減少傾向にある。主な原因としては学生に対し認知度がないことや期間が長いことなどがあると推定される。また、メディアを使った広報が出来ていないという現状を踏まえ、長期インターンシップをメディアという手段を用いて私たちが広めていく必要性があった。

## □究極の目標と私たちの目標

大学コンソーシアム京都にインターンシップ・プログラムとして長期プロジェクトコースがあることを多くの学生に周知し興味を持ち参加してもらうことにある。究極の目標を達成するために新たな目標が私たちに提示された。学生の目線から長期プロジェクトコースの魅力伝える PR 動画を作成するというものである。

## □当初の理想的な計画

計画→調査→取材→編集という流れで PR 動画を作成するように計画を立てた。シナリオ作り、編集と取材を7月から9月にかけて同時並行で行いブラッシュアップを7月から11月にかけて行うというものである。実際は一時編集で停滞し編集期間と撮影期間が伸びたため10月で追い込みをかけていく形となったものの、計画通り順調に進んだ。

## □必要なスキル

チームとして活動するために必要となったもの

- 1 スケジュール管理能力と正確な連絡
- 2 アポイントとコミュニケーション能力
- 3 撮影機材・映像編集ソフトを使う技能



スケジュールは Google カレンダー、連絡は LINE と G メール、共有は Google ドライブを中心として用いていた。連絡は必ず全員が返事をするなどコミュニケーションを積極的にとるようにしていた。撮影・取材は主に iPad とボイスレコーダーで行い、編集は iMovie をメインで行った (Adobe ソフトで音声やタイトルなど細かい部分の調整)。

## □活動内容

### ●取材・撮影

まず短期インターン生へのインタビューを行った。主な目的は情報収集である。長期インターンと短期インターンの違いを明確化させるために「なぜ長期インターンに参加しなかったのか」「長期インターンのイメージ」を質問した。アンケート結果からインターン生がどのようなことを考えてインターンに参加しているのかを大まかに把握し動画に反映した。その後各プロジェクトへの取材と撮影を行った。その後インサイトハウス、株式会社デアライブ、ワイングロッサリー、KANMAKI、株式会社ウエダ本社への取材を行った。

インサイトハウスではインターン生が自ら地域の人達と交流しているところを中心に撮影した。デアライブはインターン生がコーディネーターからサポートを受け活動している様子を撮影した。ウエダ本社はインターン生のチラシ配布やツアーの積極的な運営をする姿を撮影した。チームで協力してコミュニケーションをとっている姿を撮影した。

ワイングロッサリーは3回撮影を行った。インタビューに加えインターン生と社員の方が関わっている所を撮るために伺ったが、社員さんは肖像権の問題で動画に使用できないことが発覚しインターン生に焦点を当てた動画に変更することになった。

KANMAKI は本社と展示会の撮影に伺った。本社へ撮影に行った撮影初期は必要な素材が分からないまま素材集めをしていたが、展示会の撮影では動画の完成をイメージしながら必要な映像を撮影することが出来た。

撮影の練習期間が短かったため撮影する動画の長さがどのくらいが最適か、どの角度から撮るべきかなど撮影に必要な感覚を取材の中で練習し実践していく形となった。



### ●取材で学んだこと

#### ① 日程調整やアポイントの難しさ

日程調整をする際会社ごとに映像撮影に制限が課せられた。その為、コミュニケーションをうまくとることが出来なければ他プロジェクトの活動が把握できず、自分たちが撮りたいものと異なる映像を撮らなくてはいけなくなる。自分たちのスケジュールとの兼ね合いや相手先の考慮などに気を付けて行うことはとても難しいものだった。

#### ②撮影位置への配慮

立ち位置によっては撮影者が動画に映り込んでしまい動画への使用が出来なくなる。できるだけ撮影者が対角線上にいないように配慮して作成した。

#### ③屋外・屋内での画質の差

屋内では屋外に比べ画質が悪くなるため照明や背景にも注意を向けて撮影を行うように心がけた。自然光や人工の光どちらを選ぶかによっても映り方に変化が感じられた。

#### ④背景の重要性

映像に多くのものが映り込むと注目してもらいたい部分に目がいかない。余計なものは極力排除することで見やすい映像を撮るようにした。

#### ⑤映像の画角・対象物との距離

似たような画角や距離感を持つ素材が多くなっていた為、斜めからの構図や手元だけの映像を撮るように心がけた。それにより、臨場感のある飽きのない映像になるようにした。

#### ⑥音声録音時の雑音

編集作業を行うようになるとインタビュー時の音が邪魔だと気づき換気扇やエアコンを消すように気を付け、はっきりした音声を録音するため様々な機材を使った。

### ●編集

#### ①素材の充実

限られた素材の中からでなく、数えきれないほど沢山の素材の中から自分たちが作ろうとしているものにあった映像を厳選していく必要がある。私たちは妥協した映像ではなく自分たちが望む映像を明確化し、それに沿って作らなくてはならない。欲しい映像のみを撮り編集の際に素材が足りないことがないようにすることが大切である。

#### ②BGMと動画のイメージ

BGMによって作られるイメージと動画のイメージが一致しなければ違和感が生じ長期プロジェクトの魅力が伝わりづらくなってしまう。ポップ過ぎないまたは静かすぎない選曲で曲のつなぎ目や音量にも細心の注意を払って編集を行った。インタビューと重なる所は音量を気にならない程度に下げるなど細かい作業が中心になる。

#### ③動画のメリハリ

単調な動画にならないように構成や場面の切り替わりなどにメリハリをつけることで見ていて飽きない映像になるよう心掛けた。映像だけでなくイラストも若干挿入することでアクセントになるようにしている。最初から最後まで単調な動画ではなく動画を見る方が見やすいと感じるものになるよう常に考えていかなければならない。

#### ④テキストの使い方

動画のイメージを変えないことを前提に読みやすさを追求した。インタビューと文字の速度が同じになるように工夫するなど、テキスト全体の使い方に注意して差し込んだ。またフォントも一番最適なものを選びそれをベースとして文字を組み込んだ。可読性を追求したため明朝体でなくあえてゴシック系統を使うようにした。

### ●シナリオ案について

編集は最初シナリオ案を作成せずに進めていた。コーディネーターの池側先生のアドバイスによりシナリオ案を作成し秒単位で使用する動画の内容と意図を共有した。必要な道具や今後の方向性をしっかりと掴んだ。シナリオ案に沿って作業を始めたのは9月以降であり、8月までの素材で足りていないものを補完していくようにして作業を進めた。

### ●取材をして成長したこと

プロジェクト前期では日程の調整が上手くいかず望んだ映像が手に入らないことが原因で思うように進まなかったがそれを踏まえて行動に反映するようにした。結果、後期では取材に慣れ、編集作業を始めることが出来た。取材のアポイントも正確にとることが出来るようになり作業の効率が段々と良くなっていった。また、上手くコミュニケーションをとる事で取引先との関係を保ちながら情報を引き出す術を学んだ。

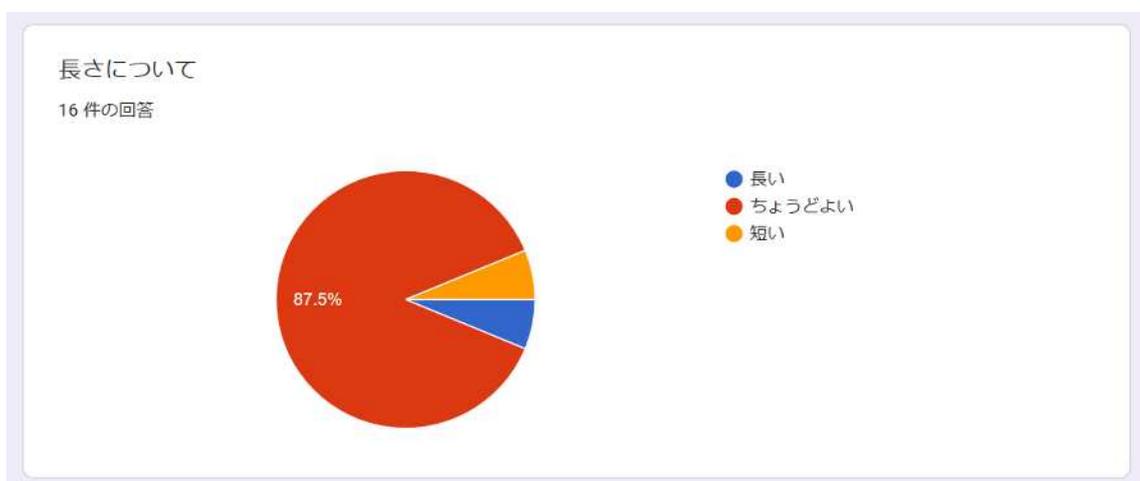
### ●編集して成長したこと

初期は集めた素材をどう使うかよく分からないまま使いそうな動画の仕分けをすることに時間をかけていたが、シナリオ案をもとにチームみんなで意見交換をしながら進めていくスタイルから個人の担当を決めて集中していくスタイルに変更した。自分のやるべきことが分かるようになることで効率が上がりそれぞれの役回りが見えてきた。

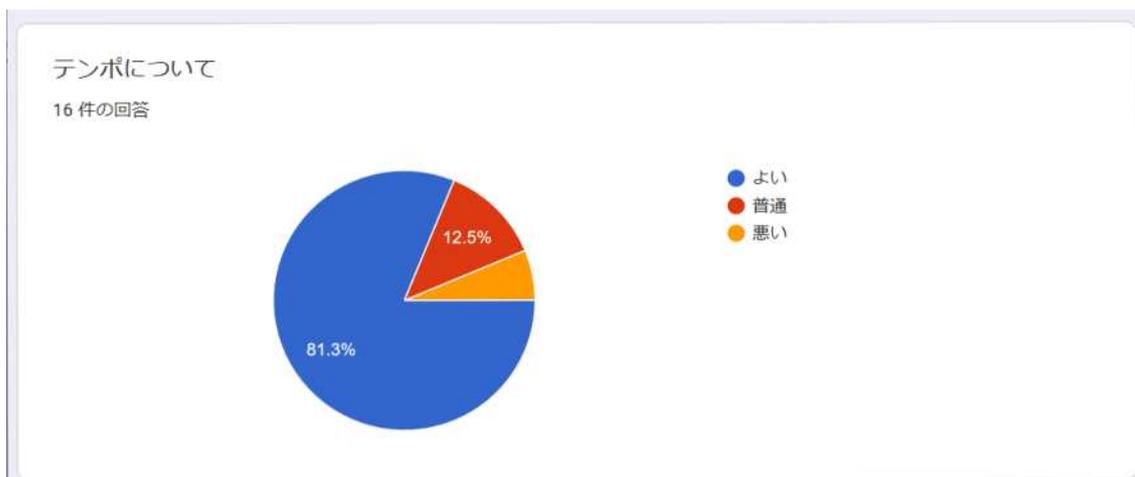


### □ 完成 PV 動画と評価

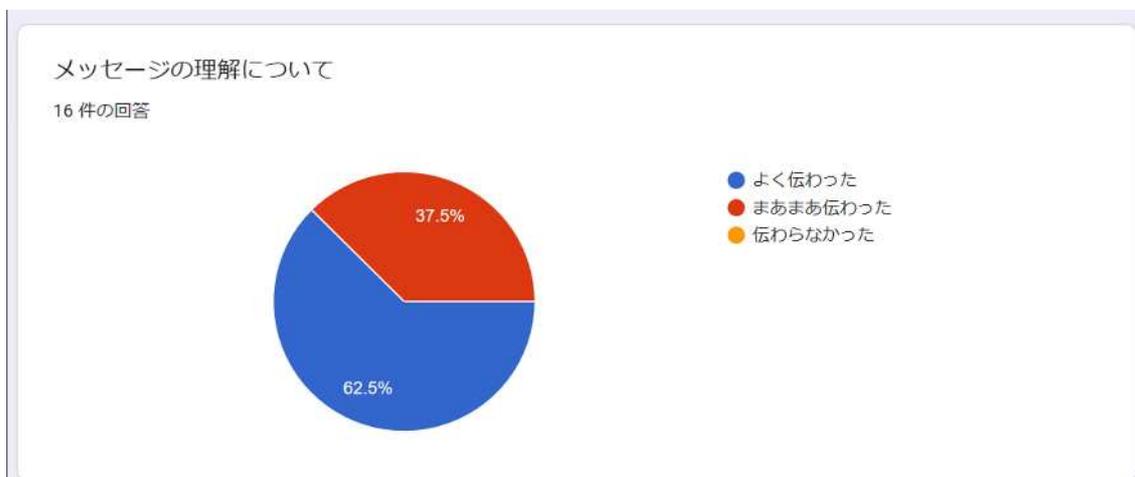
プロジェクトプレゼンテーションの際に長さ、テンポ、メッセージの理解という三観点から Google アンケートを用いて長期インターン生に評価してもらった。



動画の長さに関しては、16人中14人の方がちょうどよい長さだという結果となった。当初から、動画の長さに関してはガイダンスでの使用なども考えていたので、映像が長すぎても短過ぎてもいけなかったため、ちょうどよい長さだと感じてもらったのは良かった。



続いてテンポですがこちらも、沢山のテンポが良いという答えを頂いた。動画を見るうえで、冗長にならずメリハリのある動画作成を心がけていたので、満足のいく結果となった。



次にメッセージ理解です。私たちは、動画を作成するにあたって”インターン生の生き生きとした姿”と”長期インターンシップ活動の様子”のイメージ”を伝えることを主眼とした。結果は、約6割の方がよく伝わった、4割の方がまあまあ伝わったというものになった。メッセージを皆さんに理解してもらえたのは良かったが、まだまだ、私たちが伝えたいメッセージがうまく伝わっていなかったようである。この結果は、次回のプロジェクトに反映してもらいたいと思う。

## その他コメント

7件の回答

動画作成、大変だったと思いますが、よく纏まっていました。

現場の様子を動画で見ることで、プログラムに関心を持つきっかけになり、加えて理解を深めることにもつながると実感しました。

動画の後半にかけてクオリティが上がった気がしました！すごい。

とても完成度が高いと思いました！

おしゃれな感じでした！

オシャレな動画に仕上がってて、素敵でした！

とても良かったです。3人の一体感が伝われば更に良くなると感じました。

最後に、アンケートの中で多くの感想を頂いた。感想の多くが動画を賞賛するものであった。

私たちのプロジェクトはすぐに成果が見られるものでなく、成果物の有用性を測るのが難しいが、このアンケートの結果から、多くの学生に長期インターンシップの魅力を伝えられる動画ができ上がったと感じる。

プロジェクトの結果が出るのはまだ先だが、私たちは悔いなくプロジェクトをやりきった。

以上をもって、報告書とする。